

スエニヨ

版 コ ス シ

道新 16130
高新 1621
新愛媛 1643
中口新 1616

水ゆり代国春 - 札幌 - 1100 (本編トフ加追加)
本編同✓

No. 380 36. 4. 28

勇壯! 海軍船合戦 - 114 (本編トフ加追加)

スポーツ (700)

700

一、四年ぶりに決勝へ

デ杯東洋ゾーン

東京

デビス・カップ東洋ゾーン日本対比国の準決勝は四月二十一日から三日間、田園コロシアムで行われた。

第一日のシングルスを失い土壇場に追い込まれた日本は奮起一番、第二日のダブルスを快勝、第三日のシングルスを宮城対ホセ戦は、宮城がよく自分のペースを守り、フル・セットの末、ホセを降し、日本・比国共に最後の一戦石黒対デイロに決勝進出の望みをたくしました。

この日石黒は力にまかせた思い切ったプレーで老巧なデイロを圧倒、クレイコートに魔術師、さしものデイロも攻める機会を失い、結局石黒はストレートでデイロを破る殊勲をたて、日本チームは四年ぶりに決勝へ進出、来る五月六日から三日間、ニューデリーで行われる対インド戦に期待がかけられています。

一、米倉二度目の防衛なる

東洋バンタム級選手権

東京

東洋バンタム級チャンピオン米倉健志にタイ国のチャイデス・ナライマハラが挑戦したタイトル・マッチ十二回戦は四月二十四日夜後楽園ジムで行われました。

米倉は昨秋のメキシコ遠征で無名選手に破れ、その上眼筋神経を痛め再起を期す六カ月ぶりの公式戦、しかし試合はチャンピオン米倉が左ジャブから右ストレートをして左右フックの波状攻撃でチャイデスを圧倒、昨年一月レオ・エスピノザからタイトルを奪つて以来二度目の防衛に成功したのです。

日本の群像

一、科学日本のうらおもて

池田科学技術庁長官は、四月十七日から始まった、科学技術週間に関西各地を回つて、科学振興を大いによつての活躍です。

ところが、理科系の大学ではオンボロ校舎で授業が続けられています。定員オーバーのスシ詰め教室、廊下を通せんぼしてのわか仕立の研究室など、まさに原始的とも言える様子をかかえています。生物学の先生などは、農夫さながらの農耕作業。ペンよりも重いものは持たせないというアメリカの学者とは雲泥の差です。

このように諸外国と比べて、大きな落差のあることは、科学者を冷遇してきた法科万能主義によるものと言えましょう。

永い間外国技術に頼よつてきた我が国では、年間三百億円の特許料を外国へ支払つてきました。この現状を打開しようと、我が国産業界は国産技術の開発に乗り出しました。

そのモデル・ケースと言われる日立の中央研究所では、年間研究費五十億円と、文部省がまかなう国立大学全部の費用の二倍に相当する研究費を使っています。また国会では、所得増進計画により十七万人の理工科増員を主張する科学技術庁と四百人しか出せないという文部省が対立する有様です。

こうした、科学行政の予算と欠陥の中で、秋田県、道川の糸川研究室では、国産ロケットの研究が続けられています。しかし、その現実科学の進歩に政治の内容がついていけないことを示しているようです。

7040R

4360R

1040R

1470R